

BUTSURYO SHINBUN

No. 30

発行所：大阪物療大学
発行者：田中 博司
発行年月：2026年1月
編集：広報委員会
※無断転載を禁じます。



建学の精神

之科學為報國修

CONTENTS

- P1 - 学長挨拶・HPリニューアルのご案内
- P2 - 就活インタビュー
- P3 - 優秀ポスター発表表彰式・物療祭1日目
- P4 - 優秀ポスター発表表彰式・物療祭1日目
- P5 - 物療祭2日目・第23回市民公開講座
- P6 - 臨床実習
- P7 - 第1種放射線取扱主任者試験とは・合格者の声
出張講義・フリーキャンパスご案内



BUTSURYO_OSAKA

Instagram



LINE

学長挨拶

message



あけましておめでとうございます。

学長の田中です。

今年も寒い冬になりました。体調管理に気をつけて年明けからの勉学に勤んでください。

昨年はゴールデンウィークの短縮に不満が殺到しましたが、

今年度はたっぷり9日間と講義時間数の一部変更など、思い切った改革を決断し、

皆様にとって楽しい学生生活になることとっております。

あと三ヶ月、悔いの残らないよう努めてください。

よろしく申し上げます。

大阪物療大学 学長 田中 博司



HPリニューアルのご案内

2026年度公開に向けて、ホームページリニューアル準備中です!



就活インタビュー

4年次生 井高 由梨奈さん

高等学校卒業程度認定試験合格
内定先：地方独立行政法人
大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター

Q1 職業や就職先など卒業後の進路を選ぶまでのきっかけや進路決定の流れを時期を踏まえて教えてください。

小学生の頃、医療的ケアが必要な同級生(重い心疾患や白血病を患う友人)が二人おり、病気に向き合う子どもやその家族の存在を自然と意識するようになりました。中学生になった頃、白血病を患っていた同級生が亡くなったことをきっかけに、医療従事者を志すようになりました。その後、診療に直接携わりながら白血病などのがん治療にも関わることができ、診療放射線技師という職種を知り、この道で患者さんを支えたいという思いから、大学で資格取得を目指すことを決意しました。

Q2 利用した大学のサポートがあれば、どのようにそのサポートを活用しましたか。また、サポートがどのように役立ったか教えてください。

本学は少人数で先生との距離が近く、第一種放射線取扱主任者などの資格試験の勉強や就職活動に関する相談をこまめに行うことができました。また、先輩方が残してくれた病院ごとの就活情報を活用したほか、複数の先生方に面接練習をしていただいたことで、自信をもって選考に臨むことができました。その結果、第一志望である地元大阪の公立病院から内定をいただくことができました。

Q3 職業や就職先など卒業後の進路を決定する際の決め手を教えてください。

小・中学校時代の経験から、もともと小児医療やがん治療に携われる病院を志望していました。大学での学びや臨床実習を通して研究にも興味を持つようになり、学会発表や研究活動が



盛んな病院に魅力を感じました。また、英語と中国語を活かして外国人患者さんの多い都市部で働きたいと考えていたこと、女性として妊娠・出産・育児など将来のライフイベントを視野に入れた際に、公立病院が働きやすいと感じたことから、地元大阪の公立病院を志望しました。

Q4 就職した後に実現したいことや、思い描いている夢を教えてください。

私が就職する予定の大阪市立総合医療センターは研究熱心なスタッフが多く、職員専用の図書室など学びを深められる環境が整っています。配属先はまだ決まっていますが、先輩の指導を受けながら学会参加や研究活動に積極的に取り組み、より多くの患者様に貢献できる技術と知識を身につけたいと考えています。また、小児病床数が約200床と非常に多く、小児患者様と関わる機会が多いため、小児患者様やご家族への接遇力を磨くとともに、小児の検査・治療を安全かつ的確に行う技術を学びたいと思っています。

4年次生 河合 真瑚さん

岐阜聖徳学園高等学校 出身
内定先：岐阜県厚生農業協同組合連合会

Q1 職業や就職先など卒業後の進路を選ぶまでのきっかけや進路決定の流れを時期を踏まえて教えてください。

診療放射線技師を志したきっかけは、家族が放射線治療を受けた際に技師の方々の姿に触れ、その仕事に魅力を感じたことです。進路を具体的に考え始めたのは大学3年生の後期で、地元で貢献したい思いから地元の病院を志望しました。就職試験が早期に行われるため、病院のホームページで情報収集を行い、見学にも参加しました。さらに、大学の就職ガイダンスで履歴書の書き方を学び、応募書類を整えながら進路を決めていきました。

Q2 利用した大学のサポートがあれば、どのようにそのサポートを活用しましたか。また、サポートがどのように役立ったか教えてください。

大学の就職支援を積極的に活用しました。就職ガイダンスでは履歴書の書き方や面接の基本など、就職活動に必要なポイントを体系的に学びました。担当教員には履歴書や小論文の添削



をしていただき、表現や構成の改善につながりました。また、複数の教員に面接練習をお願いし、話し方や姿勢、細かな所作まで丁寧に指導いただいたことで、本番に自信をもって臨めました。これらの支援は大変有意義なサポートでした。

Q3 職業や就職先など卒業後の進路を決定する際の決め手を教えてください。

診療放射線技師を目指した決め手は、家族が放射線治療を受けた際、患者様に寄り添いながら高度な技術を扱う技師の姿に深く感動したことです。大学3年生の後半から進路を本格的に考え始め、将来は地元で貢献したいという思いから地元の病院を志望しました。各病院の情報収集や病院見学を通して職場の雰囲気や業務内容を知れたことが、就職先を決める大きな判断材料となりました。

Q4 就職した後に実現したいことや、思い描いている夢を教えてください。

就職後は、進歩する医療技術に対応できるように学び続けながら技術向上に努めたいと考えています。将来は乳がん検診に携わり、検診の重要性を地域に広く伝えることで健康づくりに貢献することが目標です。同じ女性として患者様に寄り添い、安心して検査を受けられる環境づくりに力を入れたいと考えています。「すべては病のある人のために」という思いを胸に、質の高い医療を支える診療放射線技師として地域に安心を届けられる存在を目指します。

4年次生 金子 愛実さん

大阪府立河内南高等学校 出身
内定先：JCHO 宇和島病院

Q1 職業や就職先など卒業後の進路を選ぶまでのきっかけや進路決定の流れを時期を踏まえて教えてください。

高校生のとき進路を考える中で医療職に就きたいと思い、さまざまな職種を調べたことが

きっかけです。その過程で診療放射線技師という職業を知り、画像の撮影を通して診断や治療を支える仕事であることを知りました。医療の「縁の下の力持ち」として関わってほしいと感じ、それが自分の性格にも合っていると感じ、そのため、診療放射線技師を目指し、この大学を志望しました。

Q2 利用した大学のサポートがあれば、どのようにそのサポートを活用しましたか。また、サポートがどのように役立ったか教えてください。

病院ごとに、先輩方が受けた筆記試験の内容や面接でどのような質問をされたのかを知ることができたため、就職試験の対策にとても役立ちました。また、就職ガイダンスに参加して面接時のマナーや身だしなみを学び、多くの先生や友人に協力してもらって面接練習を重ねたことも、大きな助けになりました。

Q3 職業や就職先など卒業後の進路を決定する際の決め手を教えてください。

私はさまざまな経験を積みたことと考えていたため、全国に施設を持つ機構を受験しました。病院によって導入されているモダリティが異なること、転勤もあることから、いろいろな病院のことを知ることができ、多くの経験を積めると感じることが就職先を決めた大きな理由です。また、人生経験として一人暮らしをしてみたいという思いに加え、出身地である大阪以外の地域についても知りたいと感じていたことも、志望理由の一つとなりました。

Q4 就職した後に実現したいことや、思い描いている夢を教えてください。

就職後は、まず基礎となる業務をしつかり身につけ、そのうえで認定資格の取得にも挑戦したいと考えています。認定資格を取得して専門性を高めるだけでなく、実務経験も積みながら、患者様にも医療スタッフにも信頼される診療放射線技師を目指します。まずは国家試験の合格が第一歩となるため、日々の勉強に励んでいます。



優 秀 ポ ス タ ー 発 表 式

2025年10月17日(金)



優秀ポスター発表表彰式

2025年10月17日(金)、本学診療放射線技術学科では、9月に4年次生によって行われた卒業研究発表会(ポスターセッション)に対する「優秀ポスター発表表彰式」を開催しました。

本学では4年次生が卒業研究に取り組んでおり、各学生は指導教員の研究室に配属され、専門分野に関連した多様な研究テーマに挑戦しています。その成果発表の場として、9月11日に卒業研究発表会(ポスターセッション)を開催し、学生たちはこれまでの研究成果を披露しました。

表彰式当日は午前10時より物療祭の開会式内で表彰が行われ、「ポスター賞」「学科長賞」「学長賞」の順に授与されました。

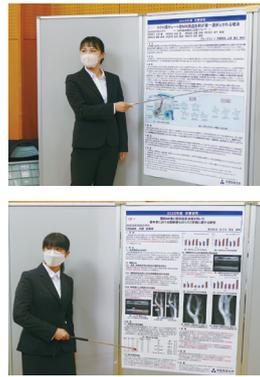
山田学科長による司会進行のもと、指導教員とともに登壇した受賞学生は、田中学長やプレゼンターの教員から表彰状と副賞を受け取りました。物療祭のスタートを彩る、素晴らしい式典となりました。

式は円滑に進行し、厳かな雰囲気の中で受賞学生の晴れやかな表情が輝いていました。また、会場に参加した3年次生にとっても、来年度に向けた励みとなる良い機会となりました。

受賞された皆さん、おめでとうございました!

本学がディプロマポリシーに掲げる研究力・探求力をさらに磨き上げ、今後の活躍を期待しています。

卒業研究発表会



1日目

物療祭



2025年10月17日(金)、18日(土)の2日間、第14回物療祭が開催されました。テーマは『迷走神経を直撃! 笑いのシナプス大暴走』でした。

開会式では、学長先生のご挨拶の後、4年間の集大成となる卒業研究ポスター発表の表彰式が行われました。井高由梨奈さんの『頸部MR像と頸部超音波像を用いた若年者における動脈硬化のリスク評価に関する研究』が学長賞に輝きました。その他、学科長賞やポスター賞の受賞者も笑顔で写真撮影を終え、今後の励みとなることでしょう。

恒例の模擬店では、各クラスから定番の焼き鳥や創作メニューのウィナー春巻きなど、9店舗が出店し、どのお店も大盛況でした。人気投票では、餃子店を出店したBクラスがグランプリを受賞しました。

アリーナでは、軽音楽部の演奏、教員の演奏、クイズ大会、カラオケ大会が行われました。軽音楽部はJ-POPを中心に11曲を披露し、会場



学長賞



4年次生 井高 由梨奈さん
出身高校：高等学校卒業程度認定試験合格

さまざまな事情がある中で、途中からにも関わらず快く指導を引き受けてくださった佐々木先生に深く感謝しています。先生のご指導のおかげで学長賞を受賞することができました。

また、お忙しい中ご協力くださった大島先生、大川先生、西先生をはじめ、多くの先生方の支えがあったからこそ、4年間の集大成として悔いのない卒業研究を完成させ、今回の受賞につながったと強く感じています。本当にありがとうございました。

学科長賞



4年次生 藤本 啓輔さん
出身高校：大阪府立河内南高等学校

卒業研究を通して、努力は確実に成果につながることを実感しました。撮像条件やファントムの検討を重ね、

表彰学生コメント



今回の表彰を受け、これまで取り組んできた研究が形となって評価されたことを大変嬉しく思います。研究を進める中で支えてくださった指導教員の先生方、研究に協力してくださった皆様には、心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も学びを深め、医療に貢献できる診療放射線技師を目指して努力を続けていきたいと思っております。

ポスター賞



4年次生 木下 愛望さん
出身高校：和歌山県立粉河高等学校

何度も試行錯誤しながら撮像を行い、ポスター制作でも伝わりやすさを意識して工夫を続けました。その結果、今回の表彰につながったと感じています。佐々木先生には、研究の指導はもちろん、報告書やポスターの添削を何度も丁寧にしていただき、より良い形に仕上げるのができました。追求し続ける姿勢の大切さを学び、心から感謝しています。また、研究室のメンバーには、パソコン作業に慣れない私を支えてもらい、とても助けられました。支えてくれた皆さんに感謝しています。



は大きな歓声に包まれました。教員と学生の合同演奏ではクラシックやJAZZなど多彩な音楽が演奏され、最後は大人数のセッションで大きく盛り上がりました。

クイズ大会は学生自治会の進行で、クイズ番組さながらの白熱ぶりを見せ、豪華賞品も多数登場しました。カラオケ大会では、審査員の先生方を前に熱唱が繰り広げられ、機械採点と審査員会場の投票により順位が決まりました。優勝は『水平線』を歌った2年生の鐵尾くんが獲得しました。

2日目

物療祭



午前中は第23回市民公開講座が開催され、言語聴覚士の水野貴志先生、看護師の宇山智久先生より、健康維持や肺炎予防、嚥下体操などについて、分かりやすく講演いただきました。多くの皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終了しました。

午後からは、お笑いライブとして吉本興業のお笑いタレントであるダブルアート、空前メテオ、真輝志さん（MC）が登場し、ネタを披露してくださいました。関西出身の学生も多く、アリーナには学生が集まり、会場は終始笑いに包まれていました。

そしてクライマックスには、一般市民の方も参加できる、iPadなど豪華景品が当たるビンゴ大会が開催され、大きな歓声の中で幕を下ろしました。

第23回市民公開講座

■2025年10月18日(土)



今回のテーマは『人生を楽しむ3つのポイント〜きょうういく、きょうよう、肺炎予防〜』と題し、昨年度に引き続き、言語聴覚士の水野貴志先生、看護師の宇山智久先生に誤嚥性肺炎に関する講演を行っていただきました。

お二人の先生は、『日本中の誤嚥性肺炎をゼロにする』ことを目標に掲げ、『嚥下サポートチームたべさば』の代表として各地で精力的に講演活動をされています。

高齢者の誤嚥は、加齢に伴う嚥下（飲み込み）機能の低下が主な原因です。飲み込む力や吐き出す機能の衰え、認知機能の低下、口腔内の細菌、さらに食べ物や唾液が誤って気管に入ることなどが要因となります。

宇山先生からは、誤嚥性肺炎の「赤信号」として「痰が増えた」「微熱がある」「食事中に息苦しい」「食後に疲れる」「ほとんど人と話さない」などのサインが紹介されました。また、高齢者

の41%にサルコペニアに伴う嚥下障害がみられるという点についても説明がありました。サルコペニアとは、老化や疾患に伴う筋肉量の減少によって生じるさまざまな障害を指します。

水野先生からは、誤嚥を防ぐ具体的な方法として、効果的な歯磨きの方法や嚥下体操をご指導いただきました。首のストレッチ、頬や舌の運動は特に有効とのこと、市民の皆さまと一緒に一連の嚥下体操を実施しました。

講演後のアンケートには、「首のストレッチを実際にやってみて、家でも続けたい」「スプーンを使った嚥下体操で舌の筋力を高めたい」「食事中に集中するために消そうと思った」など、前向きなご意見が多く寄せられました。

今後市民の皆さまの健康意識を高める講演会を継続して開催していきたいと考えています。

2025.09.22~12.22

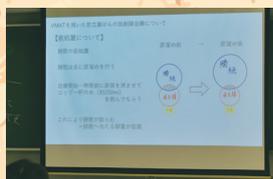
臨床実習



臨床実習学内日について

3年次生後期の臨床実習では、学生は60日間、異なる医療機関で実習を行います。これまでに履修した放射線技術に関する知識・技術を基に、臨床現場での実践的な技能の習得に加え、医療現場で求められるコミュニケーション能力や患者との対人関係能力、チーム医療を通じた診療放射線技師の役割と義務などについて学んできました。

臨床実習期間中の10~12月には、月1回、大学に登校する「学内日」を設けています。この日は、クラスごとに分かれ、学生一人ひとりが臨床実習での体験や学びを報告しました。特に今年度の学内日では、学生自身が実習を通して得た気づきや興味を持った事例を主体的にまとめ、独自の形式で発表し、学生同士でディスカッションを行うことで、「学んだ内容を分かりやすく伝える力」を養う取り組みを行いました。



1回目は緊張から声が小さくなる場面も見られましたが、回を重ねるごとに声量やトーンが改善され、発表内容もより充実したものとなりました。併せて実習の進捗状況についてのヒアリングも行い、学生たちは日々の実習の中で成長を実感している様子でした。現在は、1月中旬に開催予定の「臨床実習終了報告会」に向け、各自が発表内容の最終確認と練習に取り組んでいます。



3年次生
川上 夏歩 さん
静岡県立磐田北高校 出身
実習先: 地方独立行政法人
大阪府立病院機構
大阪急性期・総合医療センター

臨床実習が始まる前、どんな気持ち・期待・不安がありましたか？

臨床実習前は、現場でしか学べない患者様対応や機器操作などの実践的な学びに期待する一方、知識が通用するかや患者様対応で失敗しないかといった不安も感じました。

実習前に「これをやっておいたら良かった」と思うことはありますか？

実習前に解剖を復習しておいたことが特に役立ちました。解剖はすべてのモダリティに共通して必要であり、一般撮影では骨や臓器の位置関係を考えながら撮影でき、CTでは造影剤の流れや撮影タイミングを理解するうえで重要だと感じました。実習を通して印象に残った経験や学びを教えてください。

困った点は略語や専門用語が多く会話についていけなかったことですが、技師の方に教わったり自分で調べたりすることで、数日後には理解できるようになり、略語のレベルも覚えることで理解が深まりました。実習を通して、どんな力が身についたと感じますか？また、その経験や力を今後どのように活かしたいですか？

患者様一人ひとりの状況に合わせて、声の大きさや話し方を工夫しながら検査内容を説明する力が身についたと感じました。

臨床実習が始まる前、どんな気持ち・期待・不安がありましたか？

臨床実習前は、診療放射線技師の働く様子を間近で見られることに期待する一方で、未知の環境で迷惑をかけずに実習を行わなければならないという不安も感じていました。

実習前に「これをやっておいたら良かった」と思うことはありますか？

実習前に、1学年上の先輩から実習の流れや準備すべき科目などを教えてもらったことで、臨床実習のイメージが付き、気持ちになりました。

実習を通して印象に残った経験や学びを教えてください。

一般撮影で初めて患者様接遇からポジションングまでを行った際は、事前に学内実習で経験していた内容であっても、非常に緊張しました。自分が伝えたいことを患者さんに分かりやすく伝えるための言葉選びが難しく感じました。

実習中に苦労したこと・悩んだことは何ですか？それをどう乗り越えましたか？

実習中、厳しい指導に悩むこともありましたが、担任の先生に相談し助言をいただくことで、最後まで前向きに臨床実習を行うことができました。

実習を通して、どんな力が身についたと感じますか？また、その経験や力を今後どのように活かしたいですか？

患者様を通して、患者様に寄り添える技師になるという目標に近づけることができ、今後もこの初心を忘れずに生かしていきたいと感じています。



3年次生
衣笠 夢奈 さん
東大阪大学敬愛高校 出身
実習先: JCHO大阪病院

第1種放射線取扱主任者試験とは



放射線を使用するための国家資格がいくつか存在します。診療放射線技師免許は厚生労働省の管轄する国家資格であり、医師・歯科医師以外に医療として人体に放射線を照射できる唯一の資格です。しかし、放射線分野全体を考えると、さらに上位の資格が存在します。その一つが、原子力規制庁管轄の国家資格である放射線取扱主任者免許です。放射線取扱主任者には第1種から第3種がありますが、第1種は扱える放射線の種類や量に制限がありません。つまり、あらゆる放射線を使用できる最高位の資格です。また、自身が放射線を取扱うだけでなく、放射線業務従事者の監督や施設の管理を行うことができる資格となります。リニアックやPET設備のある病院においては、診療放射線技師免許だけでは放射線施設管理者になることはできません。管理者となるためには、この第1種放射線取扱主任者免許が必要です。



第1種放射線取扱主任者になるためには、毎年真夏に

実施される国家試験に合格しなければいけません。受験資格に学歴や年齢の制限はありませんが、試験科目は放射線に関する物理・化学・生物・法令・実務(放射線計測を含む)と幅広く、医療に関する内容は含まれないものの、非常に難易度の高い試験であると言えます。診療放射線技師国家試験向けの内容から、さらに一步踏み込んだ高度な勉強をしていないと容易に合格できる試験ではありません。合格率は20%程度であり診療放射線技師養成課程に在学中に合格することは、非常に意義のある成果だと言えます。

本資格は、病院、製薬会社、原子力関連施設、大学の研究室、検査会社など、多くの業界で常に需要があり、就職に非常に強い武器となります。日本における放射線業務従事者や受益者のために、放射線安全の業界における今後の活躍を期待しています。



合格者インタビュー

第1種放射線取扱主任者試験
3年次生/金井 雄太郎さん



●合格を知ったときの気持ちを教えてください。

うれしかったです。失敗したと思っていたので、驚きました。

●勉強の中で特に苦労したこと、難しかった分野は何でしたか？

特に苦労した分野は、物理と化学です。この2科目には、できるだけ多くの時間を割いた方がよいと感じました。中でも物理は、暗記ではなく理解が重要だと感じました。特にエネルギー保存則や運動方程式などの基礎分野が難しく、1年次・2年次の講義内容が大いに役立ちました。そのため、1年前期の物理学で学んだ内容の復習から取り組みました。化学については、多くの放射性核種の半減期やエネルギーを覚えることが難しかったです。語呂合わせなどを調べて活用すると、暗記しやすくなると感じました。

●この資格を取得して「よかった」と感じることは何ですか？

今後の国家試験や就職活動に対して少し自信ができました。

●この資格を、今後どのように活かしていきたいですか？

この資格を将来どのように活かせるかはまだ分かりませんが、自分で計画を立てて勉強し、合格できたことで得られた自信を、今後さまざまなことに挑戦していくうえでの強みにしていきたいと考えています。

出張講義



のご案内

本学教員による中学・高等学校への出張講義を受け付けております。本学教員が中学・高等学校へ実際に出向き、中学・高校生に大学教員の講義を直に体験頂くことにより、医療系職種及び関連する学問の魅力ややりがいをお伝えできればと思います。

フリーキャンパスのご案内

平日の夕方から本学の施設をご覧いただけます！
診療放射線技師の資格をもった教員と1対1で、施設見学したり、お話したり、
受験勉強や入学後のことなんでも質問できます！

オープンキャンパス
行けなかった



個別に相談したい

出願前に施設を
見てみたい



申し込みはこちら



- 保護者同伴可です。
- 全学年・既卒の方、参加可能です。

お問い合わせ先

大阪物療大学 入試課

Mail / kouhou@butsuryo.ac.jp TEL / 072-260-0095